

## &lt;MY アイキャン事業&gt; 「新型コロナウイルスを、フェアトレードマスクで「ともに」乗り越える」



ICAN 日本事務局  
西坂 幸

～プロフィール～

大学卒業後、民間企業での事業所運営や広報業務を得て2018年9月より現職。

## ある日のスケジュール

- 10:00 メールチェック
- 12:00 日本事務局会議
- 13:00 来客・問合せ対応
- 14:00 フェアトレード商品打ち合わせ
- 15:00 オンライン講演
- 16:30 フィリピン事業進捗確認
- 17:30 フィリピン支出申請処理
- 19:00 帰宅

フィリピンでは、3月から拡大し始めた新型コロナウイルスが8月には1日の感染者数6,000人超など、依然として油断できない状況が続いています。政府が施行した厳しい外出規制などの影響により、フィリピン国家統計局によると460万人以上の人びとが職を失いました。アイキャンの長年のパートナーである女性フェアトレード生産団体「SPNP」もまた、外出規制や経済悪化により販売機会を失い、収入が途絶えてしまいました。

SPNPは、かつてフィリピン最大のゴミ山と呼ばれたパヤタス地区において、「ゴミ山に頼らない生計の在り方」を模索し、2000年から実施されたアイキャンによる裁縫技術の訓練を経て立ち上がったフェアトレード生産団体です。日本事務局では、新型コロナウイルスの影響で組織維持の困難に直面していたSPNPと「ともに」この危機を乗り越えていくため、彼女たちの技術を生かしたフェアトレードマスクを日本で販売することを考えました。日本人にも使いやすいようデザインや素材の改良を重ね、8月に無事に商品が完成しました。日本への入荷は10月中旬を予定しています。

しかし、日本でもイベントの中止が相次ぎ、マスクの販路開拓は簡単ではありませんでした。そこで、過去に連携させていただいた企業や学校、さらに講演会の場などで、事業地の現状、このマスクの持つ意味、そしてフェアトレードの意義について説明をしました。多くの方がマスクの買取、委託販売を前向きに検討して下さいますが、学校では文化祭が中止となっている所も多く、協力したいけれど販売する機会がないという現実にもぶつかりました。しかし次第に、「文化祭での販売は難しいけど、生徒が協力したいと言っている」「まずは注文します、販路はそのあと考えます」「うちの店舗で販売できそう」等、温かいお声をいただき、アイキャンや事業地の人々と「ともに」この危機を乗り越えようと応援して下さる企業や学校が少しずつ増えていきました。加えて、1人でも多くの方に、ゴミ山で奮闘する生産団体のことを知ってもらい応援してもらいたいと思い、クラウドファンディングに挑戦することを決め、準備を進めています。



今回この危機の中で思うのは、私たちは一人では決して生きていけないという事です。このような時だからこそ、お互いに助け合い、協力し合う事が大切です。また、貧困などの地球規模の課題を解決するには、一人ひとりの行動が社会を変えていくという意識をみんなが持つ事が必要です。そして「お買い物」や「クラウドファンディング」など、一人ひとりが身近にできることを通じた解決策があるという事をぜひ多くの方に伝えていきたいです。

クラウドファンディング  
READYFOR



## フィリピン事業

8月/パタンガス (フィリピン)

## タール火山被災地で学校校舎の復旧がスタート



「この高校は私の子どもも通っています。安心して勉強できるような丈夫な校舎を作ります」と意気込みを語りました。

今年1月に噴火したフィリピン・タール火山被災地域で、校舎の復旧作業が開始しました。被災者を一時的に雇用し賃金を支払い、被災者の自立を促すキャッシュネットワーク(CFW)を通じて行われます。CFW参加者のジュンさん(男性)は

## ジブチ事業

8月/マルカジ (ジブチ)

## 難民キャンプの「子どもの広場」が再開



ぬり絵やお絵かきをするのが大好きです」と笑顔を見せました。

8月から、ジブチのマルカジ難民キャンプでは、新型コロナウイルスの影響で中止していた「子どもの広場」の活動を再開させました。受入人数の制限や、出入口に手洗い場を設けるなど、感染対策を徹底しています。参加者のマリアちゃん(12歳女の子)は「子どもの広場で友達と遊べるのがとても楽しい。ぬり絵やお絵かきをするのが大好きです」と笑顔を見せました。

## 能力強化事業 (NGO 相談員)

8月20日/名古屋 (日本)

## 県立高校の生徒へオンライン講演を実施



解決していくためには貧困や紛争といった課題があることを家族や友人に広めたい」と感想を語ってくれました。

福井県立武生東高校の国際科1・2年生100名を対象に、NGOの活動や一人ひとりができることを実践する方法等について英語で講演を行いました。講演を聞いた女子生徒は、「ゴミ等を集めて生計を立てている人がいることに驚いた。解決

## インターン育成事業

8月/名古屋 (日本)

## 新型コロナの今だからこそ「できること」を増やす



当予定です。インターン生の活躍もぜひ応援してください！

日本事務局(名古屋)ではインターン生が2名に増えました。2名は「昨今の新型コロナウイルスの影響を受け窮屈な日々を過ごしていたが、こんな時だからこそ自分にできることはないかと模索し、アイキャンへの応募を決めました」と語